

研究課題 (テーマ)	レビー小体型認知症の人が体験する幻視の様相		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	富山県立大学看護学部	助教	米山真理
研究結果の概要			
<p><b>【背景・目的】</b></p> <p>レビー小体型認知症 (dementia with Lewy bodies ; 以下 DLB) と診断された者のうち 8 割以上が幻視を経験する。幻視の症状による生活上の困難さが報告されており (Yumoto et al., 2019)、他者には見えない幻視を理解することが求められる。そこで本研究では当事者理解を深めるため、DLB の人が体験する幻視の様相を明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>【研究方法】</b></p> <p>研究デザインは質的記述的研究である。研究対象者は DLB と診断され、在宅で生活し幻視が見えているという自覚のある 20 歳以上の者とした。研究参加者に対して幻視で見たものや、はじめて幻視に気づいた理由等からなる半構成的面接を実施した。面接内容を逐語録におこし、内容分析を行った。</p> <p><b>【結果・考察】</b></p> <p>研究参加者は幻視の症状を有する DLB の人男性 4 名、女性 6 名であった。幻視はその存在感と日常生活に存在することの自然さによって分類することができたものの、幻視の内容や見えた状況は様々であった。幻視は過去の経験にもとづく映像と認識する者もいたことから、個々の生活史を聴取することが幻視の理解につながる可能性がある。また、幻視は精神状態の影響を受ける場合もあることから、専門職者には DLB の人が幻視について打ち明けやすい環境づくりが求められる。</p> <p>以上の結果を第 45 回日本看護科学学会学術集会で発表を行った。</p>			
今後の展開			
本研究結果をもとに、幻視の症状を有する DLB の人と家族に対する介入を検討していきたいと考えている。			